宇宙の原則は出す

国際ロータリー 第2650地区
2002～2003年度 ガバナー　岡村 吾郎

中国では2000年前から宇宙の原則は「出す方が先である」と指摘されています。則ち呼吸とは、呼いた後に吸うもの。出入口は、出でて後に入るもの。

これはロータリー精神の「最もよく奉仕する者、最もよく報いられる」「超我の奉仕」

2002～2003年度ＲＩテーマ：慈愛の種を播きましょう

“思いやりの心を与える、思いやりの言葉を与える、思いやりの行為と同じではないか、先ず与える（出す）ことなり”

その思いやりの心で、この原則を立証したいと思います。

◎他人を感動させようと思ったら、まず自分が感動しなければならない。（ミレー）
人の心を動かそうと思ったら、心を動かす環境を相手に提供すること。そうすれば、仕事も人間関係もうまくゆきます。

ビチャイ・ラタクル氏

◎希望は笑顔を生み、笑顔は成功のチャンスを生む。常に微笑みを。

人は明るくなくては、仕事を成功させることは困難です。笑顔と笑い声のあるところには、必ず成功が微笑んできます。

◎今ある幸せに感謝を。幸福はやってくるものではない。見いだすものである。

人は他人の幸せには敏感であるが、自分の幸せにはなかなか気づかないもの。例えば、元気で働けることは幸せであるが、それを幸福と感じる人は少なく、病気で働けなくなって初めて働ける幸せを感じるのです。

不満を並べていては、幸せは失うだけです。今ある幸せに感謝して生きてこそ、新しい意欲が湧いてくるのです。

皆さん、2002～2003年度は微笑みのあるビチャイ・ラタクル会長の慈愛の心で花園は満開です。

次年度ジョナサン・B・マジィアベ会長の「手を貸そう」（出す）でもって世界の人々を明日の平和な橋へいざないましょう。

G.S.E.ミズーリチームの受入れを終えて

地区G.S.E.委員長　木村 憲一

広島の平和記念公園にて

G.S.E.は、1965年に発足したロータリー財団の国際交流プログラムです。我が2650地区は、1971～72年度にはじまり、今年度は20回目を迎えました。

相手地区、アメリカ・ミズーリ州の第6080地区とのG.S.E.の交渉は、2001年12月に2002－03年度ガバナーDuane Benton氏と初めてメールを交わしてからスタートしました。

最初の交渉は、ＷＦ・ＤＤＦに関してでした。というのも昨年度までは単年度の交換においてもＷＦより旅費が両地区に支給されましたが、今年度より２年にわたるG.S.E.がスタートしたため、単年度の交換においては、一方の地区にしかＷＦは支給されず、もう一方の地区はＤＤＦを使ってプログラムを行うことになるからです。ご承知のように、ＷＦは全てのロータリアンのものですが、ＤＤＦは地区の財団活動資金です。今年度は、相手地区ミズーリがＷＦを受け取り、我が地区は相手地区とＤＤＦを半分ずつ出し合って交換を行うことになりました。

2002年２月アナハイムの国際協議会におけるG.S.E.本会議ミッションで、岡村ガバナーがDuane Bentonガバナーと G.S.E.の調印をして以降は、相手地区G.S.E.委員長Delores Hudson さんと、チームのプロフィールやスケジュールに関した打合せを幾度となく繰り返し、2003年３月21日にようやくミズーリチームの来日が実現しました。当初この日が、米国のイラクとの開戦の翌日だったこともあり、本当に関西国際空港の到着ゲートから出てくるのか不安でしたが、ロン団長をはじめ、男女２人ずつの４名の団員の元気な姿を発見したとき、それまでの苦労が吹き飛び安堵の胸をなでおろしました。

委員会としてお世話をしたのは、４月13・14日の広島エクスカーションでした。２日とも好天に恵まれ、宮島・平和記念館及び原爆ドーム・自動車メーカーのＭＡＺＤＡの３ヶ所を精力的に廻りました。特に平和記念館と原爆ドームでは、予定の３時間を大幅にオーバーしているにもかかわらずまだ滞在したいとリ

クエストがあり、涙ながらに次の訪問地ＭＡＺＤＡに向かったのが大変印象的でした。

今回のチームは、チームワークがよく取れた勤勉で優秀な団員が集まったチームだったと思います。帰国前日の４月20日の夕食会においては、受入をされた５クラブとの楽しい思い出話で大いに盛り上がりました。その後もホテルのトムの部屋でルームパーティを開き、トムが滞在中撮ったデジタルカメラの写真のスライドショーをみんなで見ながら最後の夜を彼らとともに過ごしました。

受入をして頂いた奈良大宮ＲＣ・亀岡中央ＲＣ・京都紫竹ＲＣ・福井西ＲＣ・甲西石部ＲＣの皆様及びホストファミリーの方々本当にご苦労さまでした。また石田ガバナー補佐様をはじめG.S.E.委員会の皆様及び奈良ＲＣ会長八木春樹様をはじめとするガバナー事務所の皆様いろいろありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

G.S.E.プログラムほど直接的に国際理解の増進に役立つプログラムはありません。今回も彼らが約１ケ月間滞在したことで、アメリカの中でもミズーリとはどういうところなのかを理解できたはずです。また彼らは我が地区（奈良・京都・滋賀・福井）での思い出をミズーリで語り継いでいってくれることでしょう。今後もこのG.S.E.プログラムがさらに発展することを願ってやみません。

G.S.E.チームの受入れホストを行って

福井西ロータリークラブ　会長　林　逸男

1.　ホームスティは感動である

G.S.E.は文化と職業のまたとない交流の場を提供する。そして、ホームスティは感動的な個人交流と国際理解を推進する。石川国際奉仕委員長から４日間のホームスティの企画書を見せられた時、私自身も正直いって戸惑った。初体験であるし、英語もできないし、福井も春江の田舎ではあるし・・・。気のすすまなかった妻も、娘夫婦の応援を得て何とか４日間の義務を果たし終えた時には、ロン団長と眼をうるませながら抱き合って別れを惜しんだ。これほどの感動を最近味わったことはない。

酒井哲夫　福井市長を表敬訪問

2.　インターネットと英字新聞は必需品

イラク戦争もあって特に国際情勢のニュースを知りたがるのは当然で、英字新聞は来福の当日すぐに手配をして、毎朝必ず手渡しをした。それよりも驚いたのは、アメリカ人にとってインターネットが日常的必需品なのである。私の場合は、娘が最近まで我が家でインターネットをやっていたので、娘にノートパソコンを持参してきてもらった。ロン団長は朝晩必ずミズーリのオザークスの湖のほとりに住む奥様にメールを送ることができて満足そうだった。日本ではまだホテルや自宅でインターネットをやれる環境にはあまりなっておらず、不便をかけたみたいであり、団員のためにスケジュールの中にインターネットの時間を臨時に組入れた。

3.　感覚の違いを学ぶ

日本人は初対面の人に対してもなれなれしくして身体に触ったりするのが歓迎だと思っている。しかし、アメリカ人は初対面の人からそうされるのは不愉快なようだ。日本人は平気でホストファミリーの代役を買って出たり、個人的にどこかに案内してあげるのが親切であると思っている。しかし、アメリカ人はホストファミリーの代役なんてとんでもないし、親しくもないのに個人的に案内してもらうなんてとんでもないのである。銃社会で自分のことは自分で守る国と、あまりにも平和な日本とでは感覚の違いが大きいことを学んだ。

組織的な旅行や研修の時はホストクラブが責任を持ち、それが終了したらホストファミリーが責任を持ち、全くの自由時間の場合は団長が責任を持つという体制が肝心なのである。

4.荷物のことで大変なことに

４週間目ともなるとおみやげ類で荷物が当然にして増えてくる。ロン団長はおみやけ類を自宅に送りたいと考えはじめた。しかし、アメリカは日本の宅急便と違って時々荷物が無くなってしまうという。それに、日本のような「ワレモノ」特別扱いが無い。保険をかけることを勧めて国際郵便小包でアメリカへ送ることを決断、そのお世話をした。ところがこれが大変なことになった。記入の仕方が違うとか、小包の大きさがオーバーしているとかで郵便局で５時間ものトラブルに発展した。

越前そばを打つロン団長

郵便局員の安易な応答が一番問題であると思うが、あまり大きなおみやげは贈らない、あまり沢山のおみやげは贈らないように配慮することも必要なのではないだろうか。いずれにしても無事荷物がミズーリに届いてくれることを祈るばかりである。

G.S.E.受入れ報告

甲西石部ロータリークラブ　G.S.E.特別委員会　委員長　伊藤　實

本年度のG.S.E.（研究グループ交換）のプログラムにおいては、ＲＩＤ6080地区のアメリカ・ミズーリ州より団長以下５名が来日されました。奈良大宮ＲＣをスタートに亀岡中央ＲＣ、京都紫竹ＲＣ、福井西ＲＣ、そして最後に当甲西石部ＲＣが創立以来初めて受入れを致しました。当クラブが最後でありＧＳＥのメンバーは日本語にすこし慣れたころではあるけれど、第５週目ということで大変お疲れであろうと思っておりました。そんな中、地区の出向委員からは「全日程フリータイムにして欲しいらしいでぇ」という声が入ってきました。でもこちらは一週間の日程を綿密につめ、来訪先にもお願いに行き、又ホームスティ先とか通訳者の方とも打合せが出来ている訳ですから「今さらどうしようもないでぇ、えらいこっちゃなあ」という不安な気持ちで一杯でした。そしていよいよ当日がやって参りました。４月14日（月）午後５時に京都駅で地区より引き継ぐことになっておりロビーで待っておりました。予定より少し遅れて地区役員とロン団長と４名の団員（男性２名・女性２名）が元気良く何の疲れも見せることなく手を振りながら「今晩は、今晩は」とこちらにやって参りました。第一印象、みんな陽気で明るい人達だなあと思いました。京都で１時間ショッピング（予定外の事）した後、甲西のホテルに向いました。その日の夜は食事を摂りながら、各自の自己紹介と一週間の日程の説明を行いました。

翌４月15日（火）の午前中は、甲西町の役場に表敬訪問し、関町長の流暢な英語でお話を聞くことが出来ました。その後三雲小学校に行き授業の参観をして習字の実習をして頂きました。また全国でもまだあまり取組みがされていない「発達支援センター」の取組みについての研修もして頂きました。午後は石部町役場に表敬訪問し、その後職場訪問と言う事で当会員の造り酒屋「竹内酒造」に寄せて頂き竹内会員の流暢な英語での説明を受けることが出来ました。そして雨山の「石部宿場の里」では江戸時代の宿場町へタイムスリップして頂きました。夜は歓迎会を行い、ホームスティ先の奥さん方や通訳でお世話頂く方々と共に自己紹介をしながら歓談致しました。その夜からは各々ホームスティ先での宿泊（３泊）となりました。

４月16日（水）の午前中は龍谷大学を訪問し、学生の就職に関しての意識の違い（アメリカでは入学時に就職先をほぼきめているが、一方日本では卒業時に決めている）についての意見交換等をして頂きまし

た。午後からは滋賀医科大学を訪問し「ＩＶＭＲ」等普通入ることが出来ないところ迄案内して頂き、実体験する事が出来大変喜んで頂けました。

４月17日（木）の午前中は、授産施設のワークセンター「バンバン」を訪問し、施設の人達と共に「かみすき」とか「パン作り」の実体験をして頂きました。お昼には水口ＲＣとの合同例会に出席して頂きG.S.E.のメンバー各々からスピーチを頂きました。（機械の故障で折角用意して頂いていた映像が映らなかったのが残念でした）午後からは陶器の里信楽町に出向き、しだれ桜が満開のミホミュージアムの美術館を見学しました。そこでは「特別展イスラム文様」を学芸員の方に案内して頂きました。帰りは信楽の町を散策してお土産に「たぬき」の焼き物等の買物をしておられました。

ワークセンターでの紙すき体験

４月18日（金）の午前中はミシガンに乗船し琵琶湖観光をして頂き、乗務員のアメリカ人と気軽に意気投合して、わいわいと楽しい一時を過ごされた様子でした。午後からは湖南中部浄化センターを訪問し日本の汚水の浄化システムについて学び、その後地元甲西町の浄化場センターに立ち寄り、日本の上水道のシステムについて学んで頂きました。

４月19日（土）は当初全てフリータイムの予定でしたが、前日の打合せによりマットさんは、山元ファミリーと共に忍術屋敷、水口祭、土山宿の見学をされました。他のメンバーは今回のロン団長の楽しみの一つであった琵琶湖でのバス釣りに向いました。そこで女性の方は高速ジェットボートに乗り沖の島等の島めぐりをされました。一方ロン団長以下男性人はプロの腕前を発揮すべくバス釣りに専念されました。しかしその甲斐なくこの日は、「ぼうず」であったそうです。でもロンさんは今度来日した時には再チャレンジしたいとの事でした。この夜は最後と言うことで当クラブ会員の参加のもと送別会を開催致しました。この夜はホームスティでお世話になった奥さんとか、通訳の方全員に出席して頂きました。たった一週間ではありましたが、いろんな出会いがあり、思い出がありました。お土産を渡したり、ホームスティ先毎にスピーチを頂いたりしました。感動のあまり声をつまらせる場面もありました。言葉は通じなくても心は通じるものだなあと思いました。この感動は各々の心の中にいつまでも宝物として残る事でしょう。

４月20日（日）いよいよお別れの日です。お世話になったホームスティのファミリーの方々に送られながら又手にはお土産を一杯持ちながら甲西を出発しました。そして予定通り午前12時に新大阪駅にて無事に地区の役員さんに引継ぎさせて頂きました。その時ホッとした反面これで良かったのかなあと、満足してくれたかなあと思いながら最後のお別れをしました。「SEE　YOU AGAIN」と大きな声で見送りました。

今回の事業ではG.S.E.のメンバーはもちろん大変貴重な体験をされたことと思いますが、お世話させて頂いた我々ロータリアンもこの事業を通じていろんなことを学んだことと思います。人と人との出会い、そしてつながり、ふれあい、友情等いろんな貴重な経験をさせて頂きました。培ったこの経験を今後のロータリー活動に活かしていきたいと思います。最後に今回のこの事業に携わって頂いた関係各位の深いご理解とご協力に深く感謝申し上げご報告と致します。

ミシガンクルーズ

敦賀西ロータリークラブ　チャーターナイト

敦賀西ＲＣ　幹事　八木秀之

平成15年５月３日、敦賀西ＲＣ認証状伝達式が、岡村ガバナーを始め来賓の方々、各クラブの会員の皆様、スポンサークラブである敦賀ＲＣの会員の皆様、地元福井県知事、敦賀市長を始めとする地域の多くの来賓をお迎えし、坂本ガバナー特別代表の開会点鐘によりＲＩ2650地区では94番目、福井県では18番目のロータリークラブとして、仲間入りの挨拶をさせて頂く記念すべき式典が敦賀市プラザ萬象で開会された。当クラブは昨年６月以降、神谷拡大実行委員長を中心に敦賀ＲＣ森会長始め会員の皆様が新しいクラブの設立に向け尽力され、スポンサークラブとしての大いなる力の結集により昨年12月２日に設立総会が行われ、チャーターメンバー38名にて発足した。その後１名入会し39名になったが、ロータリーメンバーが減少している厳しい状況の中で、チャーターメンバー全員移籍者もなく、年齢的にも若いクラブとしてスタートした。坂本特別代表、地区委員長の例会卓話の中で、少しずつロータリーについて、ロータリアンについて勉強し、例会の意義と、四大奉仕の意識が芽生えてきた時期に、チャーターナイトを行う組織を発足させた。高橋会長の発案によるテーマ、フォーカス「ＦＯＲ・ＣＵＳＴＯＭＥＲ」の言葉のもと、我々の真心と小さな感動をお伝えしよう、と活動を開始した。全員が慣れない中で作り上げたもので果たしてお客様に本当に感動をお伝えできるのか、不安と期待の入り混じった中で式典が開始された。粛々と式典が進行し、岡村ガバナーより高橋会長へ厳粛な雰囲気の中で認証状が伝達された。会員紹介の時は会員の映像が映し出され、壇上での一人一人の顔は輝いて見えた。記念事業として４月７日に敦賀市金ヶ崎緑地での環境に良いヒマラヤザクラと、大島桜の記念植樹が報告された。式典終了後、岡村ガバナーによる記念講演では、産声を上げたばかりの我々にたいして、大きな産声を上げている子供と両親の喜びのスライド、そして「単なるロータリー会員より、真のロータリアンに成長して下さい」のメッセージを頂いた。記念講演の後、祝宴までは尺八と琴の演奏が行われた。祝宴は鏡開きにより始まり、今津陸上自衛隊の大太鼓演奏、地元グループのジャズバンド演奏と続き、ロータリーソング「手に手つないで」による大きな友の輪がつくられた時には、会員一同大きな喜びと安堵感に包まれ認証状伝達式は閉会した。

明日からはスポンサークラブの応援を頂きながら、奉仕の理想を追求し、自らの生活と職業を通じて実践に務めていきたい。諸先輩クラブの皆様には今後共ご支援ご指導を心よりお願い致します。チャーターナイトには多くの方々にご出席を頂き誠に有難うございました。

Anniversary

創立50周年記念式典を終えて

福知山ロータリークラブ　幹事　吉澤　清明

1953年、スポンサークラブである京都ロータリークラブ様のご指導のもと、チャーターメンバー31名で創立した京都で２番目、地区で７番目、日本で99番目に出来たクラブであります。それから50年を経てこの４月10日に晴れて50周年式典を岡村ガバナー、京都府知事、福知山市長、パストガバナーのご臨席を賜り、さらには近隣ロータリークラブの方々、各種団体代表の方など152名の参加の中、盛大に開催することが出来ました。式典では記念事業報告、目録贈呈から、ＲＩ会長メッセージ、100％ポールハリスフェロークラブ受賞、記念講演では「ハードオフコーポレーション」山本善政氏の『私にとっての４つのテスト』のお話を頂き、深い感銘を受けました。記念事業としましては、（１）ポールハリスフェロー100％達成、（２）環境保全啓発看板の福知山市への寄贈、（３）盲導犬協会への支援寄付、（４）米山奨学募金寄付、（５）記念講演会として“米空軍太平洋音楽隊コンサート”、以上５事業を遂行することが出来ました。また、50年にわたるクラブの活動は、福知山には京都東北部に位置する“芦生の原生林”を水源とする“母なる大河”－由良川－が流れ、街もこの由良川の恩恵を受けながら発展してきた訳ですが、我々クラブの奉仕活動の基盤は常にこの由良川にあり、自然保護、由良川の浄化を目指したものであります。（１）1980年のＲＩ75周年記念には近隣６ロータリークラブの賛同を得て『スーパーブルートレインロータリー号』と銘打って400名近くの子供達を乗せ社会勉強として北近畿一周列車を走らせました。（２）2001年には「法川探偵団」を結成し、市を流れる法川の掃除と自然観察会を行い、（３）2002年には「うぶやの里探検隊」で水の起源森林の大切さを学ぶプログラムを実施し、これらはいずれも“ガバナー賞”を受賞致しました。

福知山は環境に恵まれた立地にあり、この自然環境を破壊することなく、これからも奉仕活動を通じて環境浄化保護活動を継続していかなければならないと決意するものであります。

今後ともよろしくお願い致します。

Anniversary

“今、出来る事、西南らしさ”を発揮
創立30周年を迎えて

京都西南ロータリークラブ　幹事　坪木　登

創立30周年を迎え、４月15日（火）京都センチュリーホテルにて記念例会式典と記念祝宴を開催した。西京区長をはじめ、消防署長、警察署長等各方面より、また元ＲＩ理事千玄室様、岡村吾郎ガバナー他パストガバナーの皆々様、京都市内各ＲＣの会長・幹事様等々をご来賓にお迎えし、プロバスクラブ、ローターアクト、そして我がクラブの会員とその家族併せて185名の出席を得た。

記念事業として、①プロバスクラブ提唱設立と３年にわたる育成の事業（2001年１月、21世紀の幕開けと共に設立し、現在まで物心両面の支援をクラブ挙げて実施している）②京都府・中国陝西省友好提携20周年記念への協賛事業として、（イ）中国陝西省への植樹計画支援（ロ）京都府・陝西省友好提携20周年記念講演会と日中音楽交流会の文化事業開催を実施する。この（ロ）については来る６月14日（土）に井沢元彦氏を講演者に「日本を動かすもの」と題して講演を、またバイオリニストの佐藤陽子氏ならびに中国木琴奏者　馬平（マーピン）氏、古箏奏者　姜小青（ジャン・シャオヤン）氏を迎えて日中音楽交流会をぱるるプラザにて開催する。③タイ僻地支援１万台自転車貸与計画への参加事業　④クラブ創立30周年記念誌の編纂刊行の事業　と数々の記念事業を実施する。

なおこの度は、姉妹クラブの観塘ＲＣ（香港）と漢城ＲＣ（ソウル）、友好クラブの三重ＲＣ（台北）の３クラブは急性肺炎（SARS）の問題もあり、招待をしないことにした。日中音楽交流会の中国人演奏者は日本在住者なのでSARSの心配はない。

当日ご参会くださいました皆様のおかげをもちまして無事終了できましたこと厚く御礼申し上げます。

Anniversary

30周年を迎えた京都伏見ＲＣ

京都伏見ロータリークラブ　幹事　川村　茂

京都市内で7番目と８番目のロータリークラブとして、京都西南RCと同時に誕生したわが京都伏見RCも、この４月末に30周年を迎えることになりました。

当初は、例会場も親クラブの京都南RCと同じなら、事務所も同居という状態でしたが、30年後の現在では会員数も常に100人前後（4月末現在94名）で、23まで数が増えた市内クラブの中堅どころとして活躍を続けています。

30周年記念例会と祝宴は、去る4月26日（土）午後、ＪＲ京都駅のホテルグランヴィア京都に岡村吾郎地区ガバナーら来賓多数を迎えて盛大に開催されました。

また、30周年の記念事業としては、今年度に入ってすぐの7月に、姉妹クラブの一つであるHomer Kachemak Bay RC（D-5010 アラスカ）を訪問、Homer商工会議所の庭などに両クラブの友好と京都伏見RC30周年を記念する植樹を実施。7月25日（現地時間）に開かれた式典には、Homer市長をはじめ地元関係者多数が列席しました。

Homer商工会議所の庭での記念植樹

なお、この事業は2650地区が5010地区との間で実施したFriendship Exchange Programとのタイアップ事業の意味も持っています。

もう一つの30周年記念事業は「伏見史跡道しるべ」の設置。伏見は桃山城の城下町として町並みが計画されたところから、町名の方も、屋敷にちなんだ「長岡越中・永井久太郎・水野左近」ほか、当時の国名から「三河・美濃・丹後」など、また職業集団を示す「鍛冶屋町・紙子屋町・帯屋町」とさまざまで、うっかりして住所を書くときに「永井久太郎様方」と書き間違える人も出るくらいのユニークな地名が存在しますが、その由来を紹介する案内板20枚を、それぞれの町内に設置して、伏見の歴史に親しんでもらおうという企画です。なお、初日の除幕式の模様は翌日の京都新聞朝刊にも掲載されました。

町の歴史紹介
案内板を設置
京都伏見RC
区内20か所に

30周年記念行事を伝える京都新聞（４月16日朝刊）

Anniversary

創立40周年を迎えて

大和郡山ロータリークラブ　幹事　田村　良平

昭和38年三木守人会長のもと、約30名の会員で出発しました大和郡山ロータリークラブも大西善勝会長のもと、本年40周年を迎えました。この40周年を記念して、大和郡山ロータリークラブ創立40周年記念例会と、大石恒義40周年記念事業実行委員長のもと２つの主要な記念事業を展開致しました。

記念例会は４月29日やまと郡山城ホール・中ホールで、国際ロータリー第2650地区岡村ガバナーを始め、地区役員、県下会長、幹事、また地域からは柿本奈良県知事と当クラブのテリトリーの、大和郡山市、安堵町、斑鳩町、三郷町、平群町の各長、他団体の代表者の出席のもと行われました。すばらしい祝辞の中、柿本知事の「ロータリークラブは事業を地域社会にＰＲし、クラブ自体ももっと地域社会に知ってもらうためのＰＲが必要ではないか」と言われたのが印象的でした。ただこの例会の出席者の中に当クラブの姉妹クラブ、台南西クラブの41名の出席予定者が新型肺炎のため欠席されたのは残念でありました。

40周年記念事業の一つであります記念植樹は大和郡山市と生駒郡四町に各種の桜ともみじの木を約120本２～３月に寄贈致しました。

もう一つの記念事業であります記念講演は記念例会終了後、やまと郡山城ホール、大ホールに作家の堺屋太一氏をお招きして、「和州郡山城主豊臣秀長の今日的意義」と題して行われました。堺屋さんは、秀吉が織田信長の死を機に天下人となり、「組織の変化で立場も変わり、周りでさまざまな問題が生まれた時」その問題を処理したのが秀長であった。秀長は補佐役としての能力に非常に優れた人であり、補佐役には主流の逆を考えられるバランス感覚が必要であり、今こそ企業にも国にも秀長のような良き補佐役が必要である」と語られました。この講演は一般公開で行われ、大ホールは千名余りの参加者で満員となりました。

最後にこの40周年記念事業に出席して下さった方、また当クラブの40年の中でお力添えを頂いた方、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

Anniversary

笑顔で迎えた成人式

野洲ロータリークラブ　幹事　松永　諭

野洲ロータリークラブは 1983年７月４日にスポンサークラブである守山ロータリークラブの御支援により誕生し、今年20周年を迎えることができました。

この20周年にあたり野洲町には野洲駅前の時計台・中主町にはビデオプロジェクターの寄贈をいたし、５月13日の記念式典を野洲町長・中主町長・岡村ガバナーを始め多数のご来賓をお迎えし盛大に挙行致しました。

この式典祝賀も、時節柄質素に、華美にならぬように、しかし手作りと労力にて企画いたしました。姉妹クラブの台湾　高雄東北RCがいまのSARS問題で、来日が不可能になり残念で心残りがありますが、すばらしい式典、祝宴をさせて頂きました。

この20周年を期にクラブテーマ

笑顔

笑顔にまさる化粧なし

笑顔は人一代の身だしなみ

明るい笑顔は野洲RCの太陽

で、よりよいクラブ運営と地域に密着した奉仕をし、さらなる飛躍を目指して今後とも求められるロータリークラブでありたいと思っております。

Anniversary

創立25周年を迎えて

彦根南ロータリークラブ　幹事　木村　泰造

設立時の慌ただしい動きや苦労話、初代会長の苦悩、チャーターメンバーの活躍そして代々会長の顔。各年度の事業、５年ごとの周年事業またＩＭ、地区大会ホスト時の事など今回、創立25周年の記念誌として製作したＤＶＤからクラブ25年のあゆみと歴史が歯切れのよいナレーション、音と映像で次々と紹介されていく。初期のことを知らない者でもなにか感動がこみ上げ、懐かしさと思いでに何故か目頭が熱くなる。

5月17日の創立25周年記念式典・例会は岡村ガバナー、彦根市長はじめ多くのご来賓を迎え、彦根プリンスホテルで開催させていただきました。

15名のチャーターメンバーに敬意と感謝を表し、私どものクラブの歴史を振り返ると、一貫して青少年育成をベースにした活動奉仕を行なってきました。

創立10周年の時創設された「青少年育成基金」がその後の活動を大きく支えており、設立当時の先輩方の勇気と情熱に敬意を表せずにはいられません。

そして今年25周年では環境ビデオ「水はみんなの宝物」を製作し一方5回にわたる「子ども自然観察塾」を開塾しました。この観察塾は育成基金をファンドとして、環境サークルＫという県立大学の学生たちが毎回の企画、実行、指導を行い、ロータリーは資金提供とその周辺管理に徹するといった新しいシステムです。普段教えられる側の学生達が子ども達を教える立場となり、直接指導していく。途中ハラハラすることも多くありましたがこれも青少年育成です。

何事にも一生懸命な我が彦根南ロータリークラブ。最近は会員の年齢幅も60年と拡大し、平均年齢も10歳あがり60歳ちかくになってしまいました。

世間の経済環境も厳しくロータリー活動自体も時代の変革期を迎えています。

しかし今、リストラ、効率、デジタルと世間ではビジネスライクに考える風潮ですがロータリーだからこそ村社会のいいところ、アナログのすばらしさを大事に考えたいとおもいます。

私どものクラブでは25年目を迎え、多くのチャーターメンバーが元気にご活躍頂いております。そして新たな25年に向かって60歳の年齢差をうまく融合したクラブになればと考えている間に式典、祝宴を無事終了しました。

［寄稿］ 職業奉仕

奉仕活動の二面性

谷口 陸治（勝山ＲＣ）

会社が社員に与えている報酬には、目に見えるものと目に見えないものがあると考えます。目に見える報酬とは給与や年俸そして役職や地位の実績による報酬である。目に見えない報酬は１つは職業人としての能力（センスやノウハウ等高度な知識）２つは働き甲斐のある仕事（心がワクワクする仕事）３つは人間としての成長（優れた人間性を個人の価値や財産として身につける）である。この心の報酬ともいえる人間育成の社員は、社外においても魅力的な人間としてネットワークを広げ社会に貢献できると言う。これはある誌の社の対談記事である。ロータリーに例えれば目に見えるものの奉仕は地域社会において個人や集団で奉仕活動を実践することであり、目に見えない奉仕活動はインターアクト、ローターアクトの育成であり、かつロータリアン自身の自己研さんである。今、ロータリアンとしての地域における存在感は少々淋しい思いがある。伝統ある国際ロータリーの繁栄と発展のために、会員増強と次代への後継者づくりは裏方で地道でありますが、目に見えない奉仕活動も大切でなかろうか。

自　覚

ロ、ロータリアンの原点は四つのテストを。

ー、ロータリアンの心はいつも如である。

タ、タメ息より自らの行動が奉仕の精神。

リ、りりしく、逞しくは常に自己研さん。

ア、アナタも私も友愛と結束のロータリー。

ン、ン、と一言奉仕活動はロータリアンの結集力。

2003～2004年度　地区協議会

第１回　合同地区委員会

地区幹事長予定者　高橋 秀和（京都山城ＲＣ）

2003年４月26日、国立京都国際会館において第１回合同地区委員会と地区協議会の分科会が午前中に、午後にはメインホールで全体会議と過去になかったスタイルで開催されました。10時～10時45分には、５Ｆ、６Ｆで地区の22委員会が、11時～12時には１Ｆ、２Ｆ、地区協議会分科会が11のグループで、それぞれ熱心なリーダーと委員長のもとに開催され参加者各位のご協力で十分な成果が得られたと思います。

来る年度は、①2004年５月の国際大会と京都デーの問題　②ロータリー100周年の取り組み問題　③地区大会が例年より半年早くなった問題　④ポリオ撲滅の募金キャンペーンの問題　⑤新設家族委員の問題　等々、過去に無かった問題が山積しており、それぞれ活発な質疑応答が有りました。特に今年度の地区大会は、例年の参加希望者登録制ではなく、全員参加の大会とすべく、全クラブの出席委員長、SAAの協力を得るため、クラブ奉仕部門で特別の分科会が約190名で開催され西村大治郎パストガバナーから、出席委員長SAAとしての任務についてユニークなお話を拝聴し、その後の地区大会の実務について熱心な討議がありました。

午後の全体会議では、小谷隆一地区研修リーダーの「古い途と新しい途」と題する基調講演があり、ロータリーの基本の大切さを分かりやすくお話しいただきました。又、福井ガバナーエレクトより「新しい年度に向かって」と、新年度の取り組むべき諸問題がパワーポイントを使って詳しく説明があり、続いて各地区委員長が、それぞれの年間活動計画の説明を熱意をもって発表されました。恒例の岡村ガバナーと福井ガバナーエレクトのバッチ交換の後、2003年～2004年度の船出にふさわしく、盛会裡に終了することができました。関係各位のご協力に深く感謝しております。

2650 地区探訪

地区内の伝統的な「行事」や「芸能」「食」
などに関する話題を
地元ＲＣからお伝えします

吉祥院の六斎念仏

京都朱雀ＲＣ
長谷川　彰

京都近郊農民の伝統芸能である六斎念仏は笛、かね鉦、太鼓の祇園ばやし、太鼓片手の曲打ち、獅子舞のアクロバットで親しまれてきました。中でも著名な吉祥院の六斎念仏は７月20日の「虫送り」から笛、太鼓、鉦の練習が始まり、８月25日の吉祥院天満宮への奉納で、その年の幕を閉じます。

久世、壬生、中堂寺など各地に残る六斎念仏も、それぞれ土地の特色を持ち演目にもいくらかの違いがありますが、その底流には、共に千年近く続いた伝承の誇りと、厳しい訓練が生み出した民衆自身の芸能という喜びが根強く流れ、支えとなっています。

戦前までに六斎念仏は、空也堂系の35歳までの青年会で運営、上演されるならわしが厳として守られていました。その六斎の修行を通じて、青年期の人間形成がなされていったものだと、その効用を懐しがる多くの人により支えられてきたのです。

吉祥院天満宮ゆかりの地として、太宰府に流された菅原道真を偲ぶ気風が、空也上人の鉦、太鼓念仏をとりわけ熱意をもって練習させる源泉だという人もいます。

時代が変わっても、熱気があり、軽妙で迫力ある舞台は、依然として見る者を引き込む素朴な民衆の力を発揮し続けています。仮舞台が常設の舞楽殿に変わり、夜の吉祥院天満宮は、熱狂した大勢の見物客を集めます。大向こうをうならせる土蜘蛛の手から放たれた糸、獅子の五丁とんぼ返り、碁盤乗りと演目が進む頃には、踊り手も太鼓も浴衣は汗びっしょりです。残暑をものとせず、妙技に引きずりこまれ、地元の見物客たちは、舞台と一体になってかたずをのみ、拍手を贈ります。吉祥院の六斎念仏は芝居以上の魅力を強く放散して、根強い喜びを地元に与え続けています。

明日香村　伝承芸能について

橿原ＲＣ
勝川　喜昭

明日香村では、現在「明日香南無天踊り」「八雲琴」「飛鳥蹴鞠」「万葉朗唱」の４つの伝承芸能が有るのでこれについて書いてみる。

「明日香南無天踊り」は、「日本書記」に飛鳥時代に皇極天皇（後の斉明天皇）が明日香川上流域で雨乞いをされた記述があり、その時が起源とされた農耕の踊りである。現在この地区の稲渕、歴史的風土がよく残されていて棚田百選に選ばれている。

第１部は、雨乞い奉文

第２部は、早魃に苦しむ人達の雨を乞い願う踊り

第３部は、神佛への願いが通じ国原に大雨が降る

第４・５部は、大雨の降るのを喜ぶ群衆の御礼の踊りが溢れて乱舞へと広がっていく、以上１時間30分の踊りであり30数名の村民により伝承されている。

「八雲琴」の起源は遠く「古事記」にあるとされ飛鳥寺住職故山本雨宝氏（重要無形文化財）が明日香村で伝承され現在「明日香の響き」として継承されている。二弦琴とも呼ばれ、長さ108センチ幅13センチのなまこ形で現在８名の村民により受け継がれており、村外を含め年間10数回演奏活動を行っている。

南無天踊り

蹴鞠

「飛鳥蹴鞠」は、「日本書紀」に記載があり飛鳥寺の西、槻の木の広場で中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）が蹴鞠の場で大化の改新のきっかけをつくった事で知られている。

「万葉朗唱」は、雄略天皇の時代より130年間に4516首を天皇から一般庶民に至るまでが唱い、また大和の国で唱われた900首の内1/4が明日香地方で歌われており、当時の心を今に学び、万葉の発祥の地で万葉人の心を継承して行こうと努力を重ねている。

以上それぞれの部門を伝承して行くには大変なエネルギーが必要となります。皆さまのご理解とご支援よろしくお願いします。

八雲琴演奏

西陣　智恵光陰の地蔵盆

京都平安ＲＣ
中野　敏行

真っ黒に日焼けした子供たちに、夏休みの宿題の仕上げを急ぎたてるツクツクボウシが鳴き始め、８月23日は、多くの街角で赤い提灯が揺れ、子供たちの健康を祈る「地蔵盆（親しみをこめて「お地蔵さん」）と呼びます）」が催されるのが、昔も今も変わらない京都の晩夏の風景です。

最も身近な伝統行事の一つであるこの「お地蔵さん」も、今は少子化、都市部の夜間人口の減少、そしていつまでも続く不景気など数々の要因が重なり、次第にその賑やかで和やかな風情が薄れていっています。

今は昔、明治８年（1785）、地蔵盆を前にした頃の京都に流行った疫病の平癒を祈り、西陣の智恵光院に祀られる京の六地蔵の合躰「六臂（ろっぴ）地蔵尊」（伝小野篁作）を供養するために、地元笹屋町の人々がこぞって機（はた）道具や生糸、帯、着物など、この界隈らしい道具や器具をふんだんに用いて造ったそれぞれの「糸人形」を奉じ、町屋の格子を外し道行く人々に展示披露したのが最初でした。以来、戦争がはじまった昭和12年からは中止されたものの昭和26年に復活、当地の産業の隆盛と共に、同寺のお地蔵さんの縁日と相まって年々賑やかさが増し、やがて広く「西陣のお地蔵」さんとして知られる夏の行事となりました。

ところが、19世紀後半に始まったこの新しい行事もそろそろ伝統の名を冠して恥ずかしくなく、定着するかと思われた頃、西陣に斜陽が射し始め、残念なことに昭和43年を最後に途絶え、現在に至っています。

今なお、あの頃を知る人々は「西陣のお地蔵さんは造り物（もん）がいっぱい出て楽しかったなぁ～」と思い出話に花を咲かせています。

そこで今、「これではいかん！」と、当クラブメンバーで智恵光院の若き住職、宮口順生君は在りし日の「西陣のお地蔵さん」をもう一度復興し、西陣を元気付けようと、奮闘努力を開始しました！

復興と言っても、いきなり全盛期の雰囲気を取り戻すのは不可能なことは明らかです。まずは地域の人々に在りし日を思い出してもらい、共に力を合わせてその気運を高めることが大切です。

その皮切りが、今夏の「お地蔵さん」で、境内に地域の人々を招き開いた「素人寄席」です。決して派手ではなく、手作りの素朴な行事でしたが、境内を笑い声で満たすことができたことは、復興最初の一歩として価値あるものだったと言えます。

私たち京都平安ＲＣは宮口君を筆頭に、これから先、様々な奉仕活動

の観点から、決して金銭だけの支援に偏らず、知力、体力を結集し、この「西陣のお地蔵さん」を復興し、伝統行事として定着するよう、そして地域振興と、子供たちの健康と安全を望む行事となるよう協力・支援してまいります。

何百年も続く京都の有名な伝統行事も必ずその最初があり、人々の努力によって今なお継続されているものです。時の経過と共に私達の子や孫たちが、「私達の伝統行事」と自信を持って言える新しい行事を、今創出しておくことが大切だと考えます。その点でも、この「西陣のお地蔵さん」の復興に取り組むことは、明治に人々の願いや祈りを含んで播かれた種を、再びこの平成の時代に水をやり芽吹かせ、子から孫へと託し育て上げていってもらう…　そして何時の日か気付けば立派な「伝統」の花を咲かせている、とても有意義な事業だと確信しています。

来夏には皆さまも、是非「西陣のお地蔵さん」にお越しください。

お問い合わせ／智恵光院

〒602－8208 京都市上京区智恵光院前之町601
ＴＥＬ０７５－４４１－５９２０
または京都平安ＲＣ事務局まで

【参考資料】
日本一躰「六臂地蔵尊」縁起　智恵光院発行
京都市上京区ウェブサイト
http://www.city.kyoto.jp/kamigyo

コンサート報告

若き演奏家達に熱い拍手！！

京都乙訓ロータリークラブ　会長　内藤雅夫

新緑がまぶしく輝き映えた５月10日（土）午後１時半より、京都府長岡京記念文化会館大ホールにて「第12回乙訓青少年ブラスコンサート」が催され、ホール一杯の参加者から、終始惜しみない拍手喝采が送られた。

この事業は、私共京都乙訓ロータリークラブと京都西山ロータリークラブが主催になり、行政や地区各種団体が後援母体となり、継続されて既に12回を数えるに至った。このブラスコンサートは、演奏技術のレベルアップと学校間の交流を深めると共に、地域の芸術文化活動の一翼を担うものとして、1992年５月に京都乙訓ロータリークラブが乙訓地区内で学ぶ８中学の生徒達の日頃の練習の成果を発表する機会と考え、又私共ロータリー活動の根源とも申すべき青少年の健全育成の為に、音楽を通して、豊かな人格形成に少しでも寄与出来ればとの思いから発足したものである。各市町単位で行われているが、合同乃至近隣の高校が演奏会に加わる場合には、種々な問題が生じるとの事から、私共ロータリークラブの音頭取りが、それらの問題を解決可能とした。さて、演奏当日、両ＲＣの新世代委員長始め多くのメンバーがその準備にと会場へ急いだが、隣接の中学校・公民館には既に８中学の生徒達で溢れ、本番に向けてのリハーサルに余念がなかった。私共クラブの新世代委員長の開会宣言が声高らかに発せられ、担当クラブ会長が主旨・来場者への感謝・出場者への激励をこめた挨拶の後、京都府乙訓教育長の挨拶にてセレモニーは終了。早速に演奏会へと誘われた。演奏に先立ち、代表者による各自クラブの員数・日頃の練習風景の概要が紹介されたが、その光景が何と素敵であったことか。語句を選び、簡潔・素直、そして最大限に自己クラブをアピールする様と眼が本当に初々しく感じられた。最初の学校は、ヨハン・シュトラウス作曲「ラデッキー行進曲」とＪ．スウェアリンジェン作曲「アヴエンチュラ」でオープニングを飾り、最後校は「イギリス民謡による行進曲」と「ジャパニーズ・グラフィティーⅦ～ウルトラ大行進曲！～」で締括られたが、最後まで会場全体が固唾をのんで聞き入って戴いたのが窺え、とても清々しい気分に満たされた。タクトを振り、１人でも２人でもその真摯な演奏姿を保護者に見せようとする指揮者も良かったが、それにも増して感動させられたのは、エネルギッシュなマーチやＣＭでなじみの深い曲を、迫力ある管楽器やリズミカルな打楽器を精一杯駆使し、最後の一吹一打に至る迄、眼を輝かせ演じ切った生徒達の満足顔に、度々涙腺が刺激され、感動した。と同時に、若い彼等達に拓け行く将来が、もっともっと平和で良い社会であってほしいと願うや切である。尚、会場受付にしつらえた「ポリオ撲滅キャンペーン」箱に、善意が寄せられたことも、併せ厚く厚く御礼申し上げる。

国際ロータリー第2650地区

2003～2004年度 地区大会 大会事務局 開設のご案内

〒610-0111　京都府城陽市富野久保田1-1　城陽市産業会館３Ｆ

TEL 0774-54-2917　FAX 0774-52-6769（京都城陽ロータリークラブ事務局内）